

環境白書の刊行にあたって



私たちは今、大気や水、廃棄物といった従来の環境問題に加えて、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球規模の環境問題に対しても積極的に取り組むことが求められています。

こうした地球規模の環境問題は、社会の様々な分野の事業活動や一人一人の日々の暮らしと密接に関連した問題でもあり、その解決には、行政だけでなく事業者や県民が、事業活動や日々の暮らしの在り方を環境に配慮した方向へ変えていく努力が大切です。

そのため、県では、県民、事業者、行政等の各主体が「協働」して、環境への負荷の少ない「循環」を基調とした持続可能な社会、そして自然と人が「共生」する社会を構築することを目指し、様々な取組を行っています。

地球温暖化の防止については、東日本大震災以降、全国的に省エネ・節電に対する関心が高まりを見せていることを踏まえ、昨年度から、これまでのいしかわ版環境ISOの取組から一步踏み込んで、省エネ・節電に効果が高い取組を「省エネ・節電アクションプラン」として実践していただく取組を進めています。さらに、今年度は新たに、電力需要が高まる夏場に、家庭のエアコンなどを消して、公共施設や商業施設に出かけていただくことにより、消費電力の抑制を図る「いしかわクールシェア」の取組を全県的に推進し、家庭における省エネ・節電に向けた取組の強化を図りました。

また、生物多様性の確保については、「元気な里山づくり」に向けて、世界農業遺産「能登の里山里海」の利活用・保全をはじめとする各種取組を進めています。本年5月には、能登で世界農業遺産国際会議が開催され、国内から新たに3地域が世界農業遺産に認定されました。今年度は、各地域へ本県の取組や成果などの情報を提供するとともに、本県が先導して首都圏での共同PRを実施することとしております。また、9月には、本県が中心となり、環境省や国連大学と連携して、里山里海の利活用・保全についての国内における推進組織である「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」を設立いたしました。今後、多様な主体が連携し、生物多様性の保全に加えて生業の創出、地域振興といった視点も加味しながら取組を進めて参りたいと考えております。

この白書は、環境の現状や課題、平成24年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様のご理解を深めていただく一助となることを願いますとともに、各種の取組について積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いに存じます。

平成25年10月

石川県知事 谷本 正憲